



2013 ～ 2014 年度
R I テーマ

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

国際ロータリー会長

ロン D・バートン (国籍・アメリカ)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



理事 森園 伸也
〃 前田 哲矢
〃 後藤 隆
〃 近藤 賢司

理事 森 宗明
〃 村津 忠久
〃 佐々木久宜

役員

会長 森園 伸也
副会長 前田 哲矢
幹事 平野 教康
会計 木村きぬる

例会日 火曜日 12 時 30 分
ところ ホテルニューツルタ 〒874-0800 別府市北浜1-14-15
TEL (0977) 22-1110 FAX 21-1019
事務所 別府市西野口町 1 番 1 号 青山通りビル 3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>
E-mail: info@beppu4rc.jp

VOL. 26 -19
2013 年 12 月 3 日

第 1168 回 例 会

会報委員長 大島由美子

◆点 鐘 12 : 30

◆国 歌 君が代

◆R S 奉仕の理想

◆唱 歌 どんぐりころころ

◆出席報告

委員長 衛藤 秀子

本日 の 出 席	会 員 総 数	29 名
	出 席 者	19 名
	事前メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	2 名
	出 席 免 除	1 名
出 席	欠 席 数	6 名
	出 席 率	73.08 %
前々 回の 訂正	出 席 率	84.62 %
	事後メイクアップ	2 名
	理 事 会 承 認	2 名
	出 席 免 除	1 名
	修 正 出 席 率	92.31 %
11/19		

連 続 - 回
通 算 745 回 100 %

会長の時間

会長 森園 伸也

皆さん、こんにちは。本日の卓話には、私どもクラブの初代会長である鳴海先生に「皮膚科医として、この道60年」と題して卓話をして頂きます。本日の卓話は、医師として経験してこられた話だと思いますが、鳴海先生といえは私の中ではロータリー情報の印象でして、本日の卓話の中でもロータリーに関する話が必ず出てくるのではないかと考えております。鳴海先生はロータリー探求と題して、数多くのロータリー情報を発信してくれています。その第1回には、『ロータリーとは』との題で、「ロータリーとは、他人に対する思いやりと、他人のためにつくすことである。ロータリアンは、地域社会をより良くする努力を通して他人のために奉仕し、ビジネスと専門職業生活における道徳的水準を高め、各国の人々の間に知識

・メイクアップ

事前 森 (別府東)
事後 堀、河村 (別府東)
欠席 堀、島田、大島、高宮、中尾、河村
理事会承認 桃田、岐部
出席免除 溝部

と理解のかけ橋を築いて世界平和を推進することを目指している。」とあります。この情報以外にも私ども別府中央RCのホームページには、多くのロータリー情報がアップされています。最近入会された会員の方はもちろんのことですが、全ての会員の方に見て頂き、ロータリーについて考え



て頂ければ幸いです。

以上で会長の時間を終わります。

幹事報告

平野 教康

—家族月間—

1. 本日の卓話

「皮膚科医として、この道60年」

鳴海淳郎会員

2. 喪中につき、年末年始のご挨拶をご遠慮させていただきます。

溝部 仁会員（ご尊父様）

3. 11月27日（水）18：30～春香苑に於いて「歴代会長・幹事会」が開催されました。

出席者：鳴海淳郎、村津忠久、後藤 隆、
平野教康、近藤賢司、木村きぬゑ、
亀井 孝、高宮勝美、前田哲矢、
森園伸也、平野教康 各会員

4. 本日、例会終了後、「第6回定例理事・役員会」を開催いたします。

5. 例会変更のお知らせ

くにしきRC 12月11日（水）の例会は、河津桜
植樹・白彼岸花植付け作業の為
12月8日（日）9：00～富来中学
校跡地に日時・場所変更

別府東RC 12月12日（木）の例会は、忘年会
の為 同日18：30～ホテルサンバ
リーアネックスに時間・場所変更

杵築RC 12月12日（木）の例会は、クラブ協
議会・年次総会の為 同日18：30～
やき肉みやべに時間変更

大分1985RC 12月16日（月）の例会は、クリス
マス家族例会の為 同日18：30～ホ
ルトホール大分に時間・場所変更

大分臨海RC 12月16日（第3月）の例会は、年次
総会・忘年会の為 同日18：30～
大分オアシスタワーホテル21Fに
会場変更

大分中央RC 12月17日（火）の例会はクリスマス
家族例会の為 同日18：00～大分
オアシスタワーホテルに時間変更

大分RC 12月17日（火）の例会は職場例会
の為 同日12：30～NHK大分放
送局に場所変更

中津中央RC 12月17日（火）の例会は、中津3
RC合同忘年会の為 12月18日
（水）18：30～グランプラザ中津
ホテルに日時変更

大分城西RC 12月18日（水）の例会は、木村秋
則氏講演会の為 12月15日（日）
11：30～ホルトホール大分に日時
・場所変更

湯布院RC 12月18日（水）の例会は、忘年家
族例会の為 同日18：00～湯布院
ガーデンホテルに時間・場所変更

宇佐RC 12月19日（木）の例会はクラブ協議
会・年次総会の為 同日18：30～
かんぽの郷宇佐に時間変更

大分東RC 12月19日（木）の例会は、クリス
マス家族例会の為 同日18：30～
大分オアシスタワーホテル21Fに
時間・場所変更

中津平成RC 12月19日（木）の例会は、中津3RC
合同忘年会の為 12月18日（水）
18：30～グランプラザ中津ホテル
に日時変更

6. 次週例会の予定

「年次総会」

7. 本日の回覧

- ①宇佐RC 週報
- ②「忘年会」出・欠席
- ③「新年会」出・欠席

8. 本日の配布

- ①週報No1167号
- ②ロータリーの友12月号
- ③ガバナー月信No.6
- ④地区より東京オリンピック招致の記念バッジ

スマイルボックス 副委員長 近藤 賢司

○平野(英)会員

40年ぶりにオリンピックが東京で開催される
ことになり、今回バッジを皆さんに配りました。
東京オリンピックを皆で盛り上げましょう！！



○後藤会員

本日は仕事の都合で早退します。理事会も欠席しますので、よろしくお願いします。

○衛藤会員

いよいよ師走です。

今日の鳴海先生の卓話、楽しみにしています。
年毎に喪中の数増す師走かな
年賀状の季節です。どうぞよろしく。

○村津会員

先週例会の時に、皆さんにもらっていた「我が家の菜時記」に、私の原稿ミスと校正ミスで、脱字が4つあります。冒頭・感謝のことばの15行目と16行目に、海軍兵学校の五省を記しましたが、言行に愧ずるなかりしか、気力に欠くるなかりしか、努力に憾みなかりしか、不精に亘るなかりしか、の「り」がぬけております。お詫びしてスマイル。

○木村会員

今日は、毎週ソング委員長の役割が出来ません。すみません。新しい機械に慣れないのか、機械オンチなのか、新しいのを買っていただきます。皆さん反対しないでください。

卓 話

鳴海 淳郎

皮膚科医として、この道60年

はじめに



この正月 わたしは88歳になり、皮膚科医として丁度60年を迎えることになります。
そこで、これを機会にわたしが歩いて来た道を振り返ってみたいと思います。

- ・1951年（昭和26）九大卒業、その後東京通信病院でインターン終了
- ・1953年（昭和28）1月より東京通信病院皮膚科勤務
- ・1959年 東京大学より学位授与
- ・1960年（昭和35）4月より群馬大学医学部皮膚科助教授
- ・1963年（昭和38）9月群馬大学を辞して、東京新橋に東京皮膚科診療所開設

- 5年間全国理美容ネットワークに乗って開業
- ・1968年（昭和43）12月24日 別府に帰って鳴海皮膚科クリニック開設
- ・1969年（昭和44）1月13日より診療開始

医師会役員として

別府市医師会常任理事として

- ・1974年（昭和49）4月1日より3期6年大分県医師会常任理事として
- ・1980年（昭和55）4月1日より3期6年別府市医師会監事として
- ・1986年（昭和61）4月1日より2期4年
- ・1996年（平成8年）6月・日本皮膚科学会功労会員
- ・2010年（平成22年）5月・日本臨床皮膚科医会特別会員

I. わたしの皮膚科医としてのルーツ

※ 幼年時代の追憶

人の話によると、わたしは母にとくに厳しく育てられたようですが、そのような厳しさよりも、幼年時代のわたしに英語でホーム・スイート・ホームを、フランス語でマルセイユを口伝えに教えてくれた母の優しさの方が記憶に残り、その後何10年も経つ現在においても、なお不完全ながらこれらを口ずさむことができます。以上、皮膚科医として歩いてきた道について述べましたが、どうしてわたしは皮膚科医になったのか、そのルーツを探ってみたいと思います。

一方、父は小学生のわたしに昆虫採集の仕方を丁寧に教えてくれました。また、この頃たまたま父が学生時代に書いた顕微鏡のスケッチ画を何枚か見る機会があり、妙に感動したことを思い出します。このように、自然科学への憧憬は父より、感性の育みは母より受け継がれていることを今更のように思い出します。

※ 高等学校時代の追憶

第五高等学校時代の後半、終戦後の1、2年間にあたりますが、わたしは動物学の先生のご指導で、余暇を利用して約70匹の「みみず」の解剖をしたことがあります。生殖器や盲嚢の形態を詳細にしらべ、比較解剖学の片鱗に触れて、妙に氣を引かれたことを思い出します。



※ 大学に進学して

その後九州大学医学部へ進みましたが、一年の夏休み、解剖学教授のご指導で肩甲骨の計測をしました。教授のご意向で84体の計測の結果を小論文（英文）にまとめましたが、戦後の混乱に紛れて未発表に終わってしまいました。しかし、骨の形が筋肉や関節の運動といかに関係が深いかを如実に知らされたものでした。

※ なぜ皮膚科医になったか

皮膚科医として既に50年は過ぎましたが、わたしがどうして皮膚科を選んだのか考えてみると、以上述べてきましたように、父から教わった昆虫採集をきっかけに、高等学校時代には「みみず」の解剖をしたり、大学一年の放課後には肩甲骨の計測をしたりして、自然にものを見る訓練をさせられてきました。

また、わたしは一時、精神科を選ぼうと考えたこともありましたが、なぜ母校に入局しないで東京に出てきたか、その一つに経済的な原因がありました。

東京通信病院でインターンをするようになって色々考えた末、当時の中島病院事務長が大分県佐伯出身であったこともあり、事務長の紹介もあって皮膚科部長、小堀辰治先生の教えを受けることになりました。

そして、入局以来病室の医局で机をならべ、四六時中わたしを細かく指導して下さった副部長の平出先生は、入院患者を極めて丁寧にみられる方で、早朝から色々一緒に検査をしたり、病歴を細かく書くことを教えられたり、患者さんが亡くなると、病理の先生と一緒に解剖に立ち会われるなど、皮膚科医として本当に全身をよく診られる先生に私は感化されました。

Was ist das Schwerste von Allem?

Was dir das Leichteste duenket.

Mit den Augen zu sehen,

Was vor den Augen dir liegt.

これは数あるゲーテの詩の一つですが、わたしはこの詩が好きです。（すべてのものの中で最も難しいものはなにか、それは、あなたの前にあるものを見るという、最もたやすいと思われることであるという意味）この詩をはじめて知ったのは、丁度インターンの頃でしたから、あるいはこれが皮膚科医を志すきっかけになったかも知れま

せん。

また、わたしは特に皮膚と「こころ」の問題を考えていますが、前述のように一時精神科を志望したと関係があるように思えてなりません。皮膚と神経とは発生学的にも外胚葉という同一のオリジンであることから、切ってもきれない関係にあることを今更のように思う次第です。

II. 皮膚科医として、わたしが歩いて来た道

※東京通信病院時代：

昭和28年（1953）1月～昭和35年（1960）3月

昭和26年（1951年）九大卒業後、東京通信病院にてインターン終了、そのまま同病院皮膚科に勤務することになり、当時新進気鋭な恩師小堀辰治先生のご指導を受けることになりました。

入局と同時に当時としては日本でいち早く副腎皮質ホルモン療法の研究に着手した共同研究者の一員となり、一方、アメリカで発展した新しい軟膏療法の手ほどきを受けました。そして、「副腎皮質ホルモンの円形脱毛症に対する治療効果、特にその奏効機序について」を主論文に審査をうけ、1959年 東京大学より学位を授与されたことは、わたしの生涯で忘れることのできない幸せなことの一つでした。

※群馬大学時代：

昭和35年（1960）4月～昭和38年（1963）9月

ついで1960年、群馬大学医学部助教授として赴任、山崎教授より記載皮膚科学の原点に触れたドイツ流の厳しいご指導を受けました。この北関東における研究生活3年間の様々な体験と、前任地である東京通信病院での8年間のいわばアメリカ流の自由な研究体験がミックスされて、今日の自分があるということを、今更ながら感謝しています。

※東京皮膚科診療所時代：

昭和38年（1963）10月～昭和43年（1968）12月

昭和38年（1963年）9月、群馬大学を辞した後、同年10月より昭和43年（1968年）12月までの東京新橋における5年間の開業生活は、全国理美容ネットワークにのった特殊な体験でした。始めは日本毛髪研究会本部付設の東京皮膚科診療所として発足したが、後に独立して経営。



※鳴海皮膚科クリニック：

昭和43年（1968）12月～

その後、父の度重なる脳梗塞の発作のために遂に故郷別府に帰って開業することになりました〔診療所開設は昭和43年（1968年）12月24日、翌44年（1969年）1月13日より診療開始〕。

・法人社団 鳴海クリニック：

平成8年（1996）12月～ 現在に至る。

開業以来、地域医療の第一線で多くの患者さんに接し、皮膚に関する啓蒙と、幅広い皮膚科医療で地域社会に密着することを夢見てこれまでやってきましたが、この間、別府市医師会理事を3期6年、大分県医師会常任理事を3期6年、別府市医師会監事を2期4年務め、わたしとしてはまたとない経験を重ねることができました。

また、皮膚科開業医は如何にあるべきかについて、学会シンポジウムその他で意見を述べてきましたが、とくに皮膚科の専門性を生かして包括医療をきめ細かく行ない、地域密着することを大切にされて来ました。

Ⅲ. 別府に帰省して開業後、わたしは如何に皮膚科診療を展開してきたか

皮膚科医として60年、郷里別府に帰って開業45年になります。またロータリー・クラブに入会して43年が過ぎましたが、この43年にわたるロータリーの体験は、更に皮膚科医としての職業奉仕に磨きをかけながら88歳の現在に及んでいます。

※ 皮膚科診療に対するわたしの考え方

- ・私の職業奉仕は、『常に大所高所より、あくまでも患者さんのために』にあります。
- 安易に患者さんの要求に応ずることのみが医師の職業奉仕ではないと思います。
- ・患者さんのために、常に新しい夢をもち、現時点において最善の治療が提供できるよう、研鑽を怠らないことであります。
- ・そして、皮膚科医は単に皮膚のみならず、場合によっては皮膚を通して人間全体を考え、更には、まわりの環境をも念頭におく必要があることを考えてきました。
- ・とくにわたしたち開業医は、地域医療の第一線にあって多くのありふれた皮膚病患者に接するわけですから、これと積極的に取り組み、上手に治せる医師でなくてはなりません。
- ・そのためには、皮膚症状並びにその治療経過を

細かくみることは勿論ですが、その原因なり、それを治りにくくしている背景を探るため、必要な諸検査を行い、この検査所見を参考にして皮膚症状を診、それに合わせた治療法を選び、治療経過を細かく診なければなりません。

- ・とくにアレルギー性皮膚疾患の場合にあっては、アレルギーに対する処置は勿論ですが、場合によっては神経、とくに自律神経ならびに内分泌の影響をも考えた、いわゆる三位一体の概念に基づいた治療が必要と思う次第です。

とくにわたしが自信をもってお応えできる

3つの治療

1. アトピー性皮膚炎を治す
2. 「にきび」を上手に治すには
3. レーザー治療の魅力

※開業医としての学術研究活動

以上のような考えで日常診療を行っていますと、更に新しいことが分かり、その都度これをまとめて発表することにしてはいますが、80歳を過ぎた現在でも出来るだけ年に1回、これを実行することにしてはいます。

1. 学会発表（昭和45年7月から平成25年7月まで → 33回）

- ・日本皮膚科学会大分地方会；21回
- ・日本皮膚科学会東京地方会；1回（昭和45年7月）
- ・日本皮膚科学会・学術大会；2回（昭和54年4月、昭和58年4月）
- ・日本臨床皮膚科学会；2回（昭和62年11月、平成元年5月）
- ・大分県医学会；2回
- ・別府市医師会学術研究会；3回





2. 専門誌への掲載

※ 診療内容の充実に向かって

1. 新しい治療法の導入

*凍結療法：1974年（昭和49年）以降

液体窒素による普通の「いぼ」や老人性の「いぼ」等の治療

*レーザー治療

・低反応レベルレーザー治療：1993年（平成5年）2月以降

とくに帯状疱疹後の神経痛や、通常の治療でこずっている痒疹などの『慢性皮膚疾患』『しろなまず』『円形脱毛症』などの治療に応用

・高反応レベルレーザー治療：2000年（平成12年）6月以降

とくにアザ、シミ、ホクロの治療に応用、とくに2000年6月から大分県では初めての、九州では3番目のQスイッチ・ルビーレーザーを導入して、太田母斑という特殊なアザの治療を始めました。また、炭酸ガスレーザーも導入してイボやホクロの治療が容易になりました。

2. JNスキンケアセンターの併設（1991年8月）とメイク・アップ教室の開催

- ・皮膚に関する医学と美容のドッキングが必要であり、皮膚科学に立脚した美容が大切なことから、治療とケアを一貫して行うためにジェイ・エヌ スキンケアセンターを併設しました。（平成3年8月20日）
- ・年2回（夏に入る前と冬にいる前）の行事であるメイク・アップ教室は、医師であるわたしと、シュウ・ウエムラ化粧品のインストラクターとはじめによく打ち合わせをし、皮膚科より見た一人一人の問題点を考慮にいれてメイク・アップの指導を行いました。
- ・とくに最近では光線過敏症の患者さんが多く、紫

外線カットが大切な手段となっていますので、これに基づいたメイク・アップの指導が必要になってきました。

- ・今後は、お年寄りに「夢を与える」ことをモットーにしていますので、将来はデイサービスに準じた形で、気楽に来ていただくようなことを考えております。

3. 新世紀に向けて理想の全身シャンプーをつくる（2001年1月）

スキンケアの第一歩である皮膚の清浄、とくに入浴の問題は、温泉地・別府に住む人々にとっては切実な問題であり、常にわたしの脳裏から離れられない問題でした。

過去3回にわたる入浴調査の結果を生かし、何時かは理想的なシャンプーをつくりたいと思っていましたが、2001年1月、東京の化粧品メーカーの協力を得て、オリジナルの全身シャンプー（ジェイ・エヌ全身シャンプー）をつくることになりました。

ジェイ・エヌ全身シャンプーの特徴

- ・『あか』や『よごれ』は取るが、最後の脂気は残し、しっとりとした皮膚を保護する。
- ・温泉のような硬水で使っても、普通の石鹸と違い、肌を荒らさない。したがって、アトピーの人でも安心して使える。
- ・普通の中性洗剤と違って、泡は分解しやすく、公害を残さない。

4. 夜間診療の実施（2002年10月）

- ・アンケート調査の結果、患者さんの要望に応じて2002年10月21日より開始しました。
- ・月、火、水、金曜の6時半より8時まで実施していましたが、2009年9月1日より80歳を過ぎでの体調を考え、夜は7時までとしました。

※ 皮膚に関する健康教育活動の展開

・医師会関係

皮膚科開業医の新しい生き方を求めて
（別府市医師会報；18巻・3号・昭62）

・ロータリー・クラブ

地域社会における皮膚科医の役割
（昭和45年10月23日）

・テレビ関係

NHK健康教室・2回
（平成2年1月31日、5月20日）





TOS皮膚の健康・日焼けにご用心
(平成2年6月2日)

・新聞関係

入浴調査：大分合同新聞、今日新聞
(平成2年10月)

皮膚について思う：今日新聞
(平成7年1月1日)

・入浴調査：

別府市地域保健委員会
(昭和44年2月～4月、昭和51年10月～11月)

・市民健康講座

冬と皮膚病 (昭和61年1月18日)

夏と皮膚病 (平成2年7月21日)

皮膚病あれこれ (平成7年7月7日)

※ 皮膚に関する啓蒙の推進

1. 皮膚に関する小著発行

1. 皮膚、この大切な器官 初版
昭和61年5月(1986年)
第2版
平成8年3月(1996年)
2. お化粧と皮膚 昭和63年10月(1988年)
3. 皮膚と「こころ」 平成5年8月(1993年)
4. スキンケアのために 平成11年1月(1999年)
5. 「みずむし」を治す 平成11年7月(1999年)
6. 温泉と皮膚 平成13年7月(2001年)
7. 皮膚科診療のために 平成15年1月(2003年)
8. 皮膚を心底きれいにするには
平成18年1月(2006年)
9. アトピー性皮膚炎を治す
平成19年7月(2007年)
10. 「にきび」を上手に治すには
平成19年7月(2007年)
11. レーザー治療の魅力 平成19年7月(2007年)

2. ホームページ「クリニックレポート」の開設 (2001年8月)

- ・皮膚科医50年の経験に新しい知識を加え、時宜に適した話題をテーマに、主としてありふれた皮膚病について分かりやすく解説するとともに、
- ・わたしの考え方を皆さんによく知っていただくために、2001年8月1日開設。(http://www.narumi-clinic.jp)
- ・はじめは週1回、2年目より10日に1回の更

新で、最近はずっと更新していますが、2013年(平成25年)7月14日で181回に達しました。

ロータリアンとして

わたしは1970年9月以降ロータリアンとなり、別府ロータリー・クラブ会員について別府中央ロータリー・クラブ会員として43年が過ぎました。

これまで務めたロータリーの役職は以下の通りです。

※ これまで務めたロータリーの役職

- ・1970年9月 別府ロータリー・クラブ入会、
- ・1986～87年度：別府ロータリー・クラブ会長
- ・1988～89年度：特別代表
- ・1989年 3月：別府中央ロータリー・クラブ創立会員
- ・1988～89年度：別府中央ロータリー・クラブ初代会長
- ・1989～90年度：別府中央ロータリー・クラブ初代会長
- ・1991～92年度：国際ロータリー第2720地区ロータリーの友地区委員
- ・1992～94年度：国際ロータリー第2720地区ロータリーの友地区委員
- ・1995～96年度：別府中央ロータリー・クラブ会長
- ・1996～97年度：国際ロータリー第2720地区大分第三分区代理
- ・1998～99年度：国際ロータリー第2720地区大分第三分区代理
- ・2000～01年度：国際ロータリー第2720地区ロータリーの友地区委員
- ・2002～03年度：国際ロータリー第2720地区ロータリーの友地区委員
- ※ ベネファクター：1994年11月15日
- ※ メジャー・ドナー：2001年8月1日

※ 国際大会をはじめ、RI関係の会合出席

- ・1996年アジア地域大会 (バンコク)
・・・1996年10月25日～27日
- ・国際ロータリー2004年国際大会 (関西)
- ・メジャー・ドナー午餐会



2001年11月30日： 東京・高輪プリンス
 2002年11月29日： 大阪・大阪リーガロイヤル
 2003年11月28日： 東京・新高輪プリンス
 2004年11月26日： 広島・リーガロイヤル
 2005年11月25日： 東京・新高輪プリンス
 2006年11月24日： 岡山・グランビアホテル岡山
 2007年11月21日： 東京・ホテルグランパシフィック メリディアン
 2008年11月20日： 東京・ホテルグランパシフィック LE DAIBA
 2009年11月18日： 東京・ホテルフランパシフィック LE DABA
 2010年11月25日： 大阪・リーガロイヤル H
 2012年11月27日： 東京・ホテルグランパシフィック DE DAIBA
 2013年12月 2 日： 東京・ホテルグランパシフィック DE DAIBA

以上の出席により、“ロータリーの会議では、スケールが大きくなると、それなりの感動が得られる。”と言うことを改めて痛感した次第です。

以上、わたしなりにロータリーを身につけ、頑張ってきたつもりですが、今では次のようなロータリー哲学を座右の銘にして頑張っています。

最後の2つの言葉は、ロータリーの心を自分の

わたしの信奉するロータリー哲学

ロータリーの奉仕とは

“Thoughtfulness of and helpfulness to others”

「他人のことを思い、他人のために尽くす」・・・思いやりの心
 思いやりの心を人間のみならず、まわりの環境にも

その究極の目的は

“He Profits Most Who Serves Best”

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

最もよく奉仕するには

“Nothing but the best”

Nothing but the best の奉仕を考える

製造業の場合：これ以上良いものはつくれない

サービス業の場合：これ以上の良いサービスは出来ない

医師の場合：患者さんのために現時点で最善の医療を施す

そのためには

“To dream a new dream”

常に新しい夢を 夢みて

どうすれば他人のためになるか、まわりの環境に役立つか、
 常に新しい視点より考え、これを実行に移す。

職業に生かすために心がけているわたしの好きな言葉ですが、地域のために何か良いこと、新しいことができないか、常に新しい夢をえがきながら毎日の仕事にベストを尽くす努力をしております。

その結果として世間の信用が得られ、これがいわゆるProfits（利得）につながり、ひいては地域の活性化に役立つのではないかと思う次第です。

次に、現在のわたしの心境を述べてみたいと思います。

現在のわたしの心境

～ 現時点で親、子、孫 3代にわたり

医療に従事していることに感謝したい～

(わたし)

淳 郎： 87歳・鳴海クリニック 院長

(長男)

篤 志： 58歳・別府医療センター 救急部長
 ・大分大学医学部 臨床教授

(孫)

宏 子： 27歳・下関済生会病院 小児科:

雄 気： 26歳・沖縄県立中部病院 研修医

進 悟： 20歳・山口大学医学部 一年

(次男)

賢 二： 55歳・順天堂大学医学部消化管外科学
 先任准教授

順天堂東京江東高齢者医療セン
 ター 外科科長

来年は88歳の記念すべき年～

・皮膚科医になって60年

・別府中央ロータリー・クラブ創立25周年